

6 指標と数値目標

分野アウトカム(目指す姿)-(A)

No.	項目名	指標名	現状値	目標値 (2029年)
(1)	がんによる死亡率が減少している。	がんの75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対)	全がん 67.9 胃 7.7 大腸 9.7 肝 3.7 肺 11.3 乳 9.5 子宮 5.9 (2021年)	減少
		5年相対生存率	全がん 63.9% 胃 62.7% 大腸 68.0% 肝 33.0% 肺 32.6% 乳 93.6% 子宮 79.3% (2009-2011年)	増加
(2)	すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上している。	身体的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	60.8% (2018年)	増加
		精神的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	65.1% (2018年)	増加
(3)	がんになっても安心して暮らすことができる社会が構築されている。	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	81.0% (2018年)	増加

中間アウトカム(分野アウトカム達成に必要な状態)-(B)

No.	項目名	指標名	現状値	目標値 (2029年)
(1)	がんの予防及び早期発見	がんの年齢調整罹患率 (人口10万対)	全がん 377.5 胃 41.9 大腸 57.6 肝 12.1 肺 39.5 乳 100.0 子宮 33.9 (2019年)	減少
		早期がん割合(全国がん登録:進展度・総合、上皮内と限局)	全がん 52.9% 胃 56.2% 大腸 58.5% 肝 63.3% 肺 33.4% 乳 64.5% 子宮 78.3% (2019年)	増加

No.	項目名	指標名	現状値	目標値 (2029年)
(2)	がん医療 の充実	がんの診断・治療に対するがん患者 の総合的評価 ※10点を満点とする評価	8.0点 (2018年)	増加
		納得のいく治療を選択できたと思う がん患者の割合	75.8% (2018年)	増加
		院内がん登録数	12,049件 (2021年)	
		手術件数	9,353件 (2021年)	
		薬物療法患者数	19,039件 (2021年)	
		放射線治療患者数	3,083件 (2021年)	
		緩和ケアチーム新規患者数	1,128件 (2021年)	
(3)	がん患者 やその家 族を支え る環境整 備	家族の悩みや負担を相談できる支援 が十分であると感じているがん患 者・家族の割合	42.7% (2018年)	増加
		がんやがん治療に伴う身体の苦痛や 気持ちのつらさにより、日常生活を 送る上で困っていることがない人	68.9% (2018年)	増加

施策-(C)

No.	項目名	指標名	現状値
①	喫煙対策に関する効 果的な普及啓発の実 施	20歳以上の者の喫煙率	17.6% (2022年度)
		受動喫煙の機会を有する者の割 合(職場・家庭・飲食店)	職場 20.0% 家庭 4.3% 飲食店 13.1% (2022年度)
②	生活習慣(運動、食 事、飲酒)の改善に関 する効果的な普及啓 発の実施	食塩・野菜摂取量、果物摂取量 100g未満の者の割合 運動習慣者の割合 リスク飲酒者の割合	食塩 9.7g/日 野菜 292.8g/日 果物 63.5% 運動習慣者(20-64,65-) 男 22.0%, 55.1% 女 20.3%, 45.1% リスク飲酒者(20-) 男 15.5% 女 9.4% (2022年度)
③	肝炎に関する普及啓 発、肝炎ウイルス検 査陽性者へのフォロ ーアップ・治療の推 進	肝炎ウイルス検査受検率(国保 加入者40歳検診対象者)	13.8%(B型) 14.0%(C型) (2022年)
④	子宮頸がん及び HPVワクチン接種に 関する県民の理解の 促進	HPVワクチン実施率	38.7% (2021年)

No.	項目名	指標名	現状値
⑤	がん検診の受診率・精検受診率向上に向けた取組	がん検診・精密検査受診率 (胃、大腸、肺、乳、子宮頸)	がん検診受診率 胃 39.5% 大腸 45.7% 肺 52.4% 乳 49.9% 子宮頸 43.1% (2022年)
⑥	がん検診の職域における取組の促進		精密検査受診率 胃 86.2% 大腸 68.9% 肺 85.1% 乳 91.9% 子宮頸 86.5% (2020年)
⑦	がん検診の精度管理における取組の促進		
⑧	地域の実情に応じたがん医療の均てん化・集約化	がん拠点病院の診療実績 ①院内がん登録数 ②手術件数 ③薬物療法患者数 ④放射線治療患者数 ⑤緩和ケアチーム新規患者数)	①12,049件 ②9,353件 ③19,039人 ④3,083人 ⑤1,128人 (2021年)
⑨	拠点病院と地域の医療機関等との役割分担と連携強化の推進		
⑩	がんゲノム医療・小児・AYA がん医療、希少がん・難治性がん等の医療体制の整備	小児がん診療実績(①年間入院患者延べ数 ②外来患者延べ数③他施設から受け入れた患者数④患者の紹介を受けた医療機関数)	①196人 ②5,151人 ③38人 ④32機関 (2021年)
		希少がん症例数	177件 (2022年)
⑪	緩和ケアにおける地域連携の促進及び提供体制の整備	拠点病院等の緩和ケアチーム新規患者数	1,128人 (2022年)
		身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると思う患者の割合等	37.3% (2018年)
		緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	55人 (2021年)
		自施設でがん診療を受けている緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数	625人 (2021年)
		緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数	38回 (2021年)
⑫	がん医療に係る人材の確保及び育成等	緩和ケア研修会修了者数 (拠点病院等以外の施設の医師・歯科医師)	300人 (2022年)
		がん治療認定医数	236人 (2022年)
		がん看護専門看護師数	16人 (2022年)
		放射線治療専門医数	18人 (2022年)
		がん放射線療法看護認定看護師数	6人 (2022年)

No.	項目名	指標名	現状値
⑫	がん医療に係る人材の確保及び育成等	放射線治療専門放射線技師数	27人 (2022年)
		がん薬物療法専門医数	10人 (2022年)
		がん薬物療法認定薬剤師数	16人 (2022年)
		がん化学療法看護認定看護師数	15人 (2022年)
		緩和医療認定医数	15人 (2022年)
		緩和薬物療法認定薬剤師数	11人 (2022年)
		緩和ケア認定看護師数	27人 (2022年)
		がん性疼痛看護認定看護師数	7人 (2022年)
		緩和ケア研修会修了者数(医師・歯科医師)	2,928人 (2022年)
		がん相談支援センター相談員指導者研修会修了者数	15人 (2022年)
⑬	相談支援体制の充実	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	92.2% (2018年)
		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数	5,103件 (2021年)
		相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	121人 (2021年)
		ピアサポーター養成数	※
		患者サロン開催数	28回 (2021年)
⑭	がん患者の就労支援	がんの治療等のために通院しながら働き続けられる環境にあると思う県民の割合	25.0% (2022年)
		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	40.1% (2018年)
		拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	401件 (2021年)
⑮	自殺リスクに対する相談体制の整備やがんの正しい理解への普及啓発	精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 ※思わないと回答した割合	65.1% (2021年)
		がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる割合	16.8% (2018年)
⑯	小児・AYA世代のがん患者支援の充実	妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費助成件数	19件 (2022年)
		アピアランスケア助成件数	849件 (2022年)
		在宅ターミナルケア実施市町数・助成人数	4市・15人 (2022年)
		妊孕性温存療法実施指定医療機関数	3機関 (2022年)
		ピアサポーター養成数	※
		患者サロン開催数	28回 (2021年)

※ 令和6(2024)年から登録のため数値なし

No.	項目名	指標名	現状値
⑰	小児・AYA 世代のがん医療提供体制の充実	小児がん診療実績 ①年間入院患者延べ数 ②外来患者延べ数 ③他施設から受け入れた患者数 ④患者の紹介を受けた医療機関数	①196人 ②5,151人 ③38人 ④32機関 (2021年)
⑱	小児・AYA 世代のがん患者の保育環境・教育環境の充実	入院中の小・中・高校生に対する学習支援延べ件数	106件 (2022年)
⑲	高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備	人生会議(ACP)に係る認知度	21.4% (2022年)
⑳	学校におけるがん教育を推進するための環境整備	がんについての認知度(治療法等)	69.8% (2022年)